

医学コースプログラム7 いのちの学習会

2022.12.07

移植医師 高橋一宏先生をお招きし、12月2日(金)本校実践室において「いのちの学習会」を開催しました。

参加者は3年次生(23名)、4年次生(1名)、5年次生(1名)の計25名でした。

この学習会は、「自他の生命を尊重する心を育む」ことを目標にしています。

1. 講義

(1)動画の視聴

(2)臓器移植に関する講義

①臓器移植の歴史

1954年世界初の腎臓移植(アメリカ)

1963年スターツルによる肝臓移植(アメリカ)

1967年バーナドによによる心臓移植(南アフリカ)

1968年札幌医大の和田医師による日本初の心臓移植

脳死判定、移植患者選定などしゃかいに強い不信かを生む

1997年「臓器の移植に関する法律」施行

脳死の定義、生体移植・死体移植(心臓死、脳死)

2008年イスタンブール宣言

国際医療学会「移植が必要な患者の命は自国で救う努力をすること」

2009年「改正臓器移植法」施行

②臓器移植の問題点

- ・ドナー不足
- ・臓器売買
- ・渡航移植



2. グループワーク

6つの班に分かれ事前に提示されたテーマについて話し合いを行いました。

【事前提示テーマ】

一昨日、あなたの母親が交通事故にあい、病院に救急搬送されました。

検査の結果、脳死と医師から告げられました。

母親は、臓器移植意思表示カードを持っていませんでした。

医師から「臓器提供をしますか」と尋ねられました。

あなたの父親は提供に賛成、あなたの兄妹は賛成か反対かわからない、

祖母は反対でした。

あなたの意見を述べてください(賛成、反対など)。

またその理由を述べてください。



3. 発表会



4. 感想

私は、臓器移植に関して何も知識を持っていなかったもので、現状を知れて良かったです。また、専門家の方に丁寧に説明していただいたことで、正しい理解をすることができました。自分が死んでしまった後、家族のために意思表示をするのが良いと知れたので、臓器提供意思表示カードを持とうと思いました。また、家族が死んでしまったとき、皆で決断する必要があることも知れたので、時々家族と話し合いの場を設けたいと思いました。臓器提供は社会から見たら、提供した方が善いことになるでしょうが、提供することに対し、精神面から反対意見が出やすいことも確かだと思います。否定せず、理解をすることを大切にして臓器提供についてこれからも考えたいと思います。

臓器提供の話は、以前から家族との間でたまに話題になっていたもので、今回の学習会の話にもとても興味があり、勉強になった。臓器提供するか否かは一大事だし、判断には責任が伴う。だからこそ、自分が死ぬ前にきちんと意思表示をし、家族とも話し合って了承を得て、もしもの時のために備えるべきだと思う。そうすることで、もし急死したときに、どうするかモヤモヤ考えたり、これでよかったのだろうかという疑念につきまとわれて後悔したりすることもなくなくなると思う。最期まで自分らしい人生をまっとうすることができると思う。だから、私も意思表示カードに記入し、常に持ち歩くようにしたい。そして、願わくば、私の臓器で病気で苦しんでいる誰かを救い、その人の中で生き続けたい。

治療には、人工臓器・再生医療・生体移植の3つの方法があるとわかった。また、生体移植と死体移植で提供できる臓器の種類が異なることに驚いた。家族が脳死になった時、臓器提供に賛成するか反対するかでとても迷ったが、実際脳死に直面したらもっとショックだし時間もないと思うので、臓器提供意思カードに記入したほうが良いと思った。